

令和6年 異常気象に勝つ秘・作!

(株)ネイグル新潟

「高温に勝つ稲を作る」イメージ①→④

① 健苗育成と土壌改良で作土層全体にスピーディに根を張らせる。(田植後～2か月)

★ミネラルと腐植酸による効果的な地力アップ!

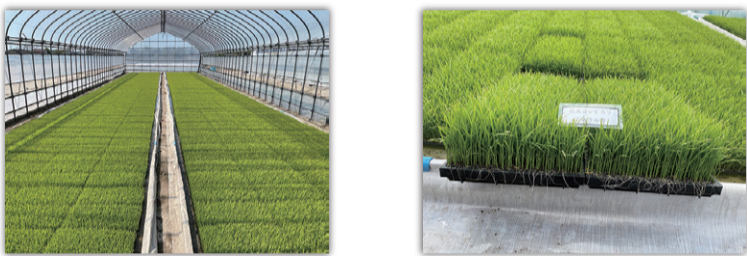
★苗を制して増収を狙いましょう!



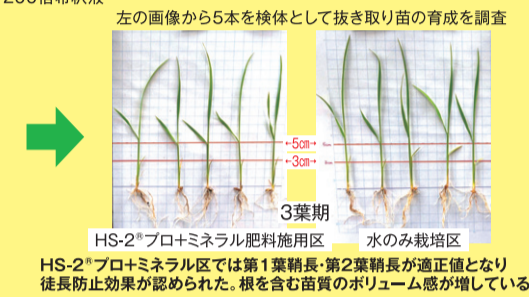
～ BS資材の活用で、徒長苗を抑え、瞬発力のある苗を育成～



～ プール育苗で根張り良く苗丈の揃った苗～



場所：新潟県阿賀野市 品種：従来コシヒカリ 試験方法：プール育苗時の慣行栽培（水のみ栽培）と比較
使用量：HS-2®プロ2,000倍希釈液+ミネラル肥料（ハニー・フレッシュ）200倍希釈液



HS-2®プロ+ミネラル肥料施用区 水のみ栽培区
HS-2®プロ+ミネラル肥料施用区では全体的にシマリ感がある

左の画像から5本を検体として抜き取り苗の育成を調査
3葉期
HS-2®プロ+ミネラル肥料施用区 水のみ栽培区
HS-2®プロ+ミネラル区では第1葉鞘長・第2葉鞘長が適正値となり徒長防止効果が認められた。根を含む苗質のボリューム感が増している

② 夏に稲の体温を上げない

★ミネラル（ケイ酸・苦土）で蒸散を高め、体温を下げる（気化熱で稲体温1.4℃低下）

ハイグリーンによる稲体の高温障害対策 中期深水HG区～対照区

ドローンでのサーモグラフィー空撮
空撮日時：2021年8月19日木14時02分
2021年8月19日木新潟14時の気温30.4℃※（気象庁ホームページより引用）

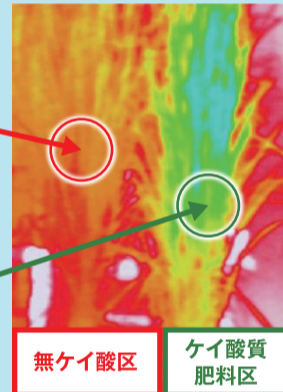
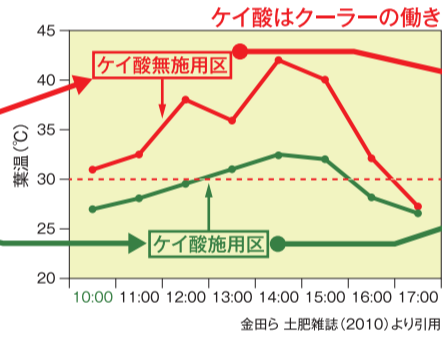
稲体の温度差	最大温度(℃)	最低温度(℃)	平均温度(℃)
対照区	29.3	27.9	28.7
ハイグリーン区	27.9	27.2	27.5
稲体の低下温度	1.4	0.7	1.2

対照区と比較し、ハイグリーン区は最大温度が1.4℃低い結果となりました。

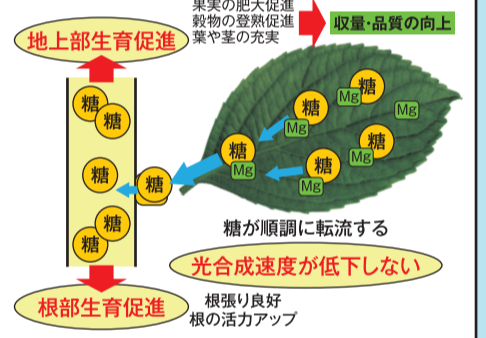
ケイ酸のクーラー効果で稲体を冷やし、近年の異常気象に対応できる丈夫な稲に仕上がります!!



高温条件における葉温に及ぼすケイ酸の効果

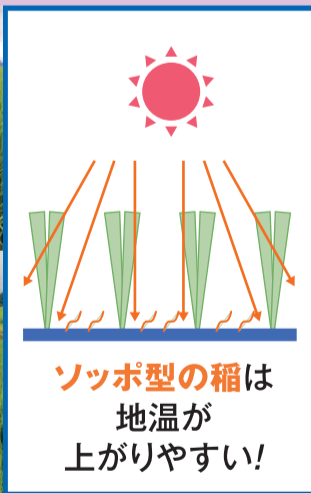
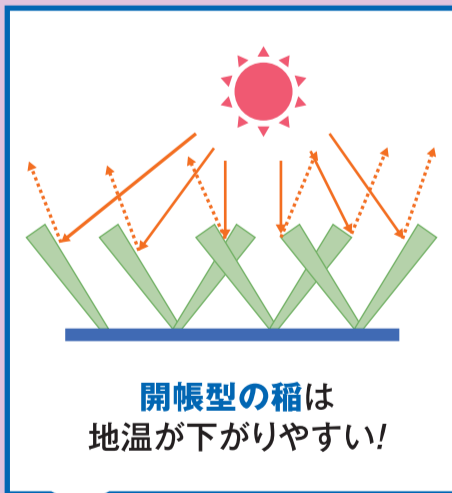


苦土の効果で根と地上部の生育を促進

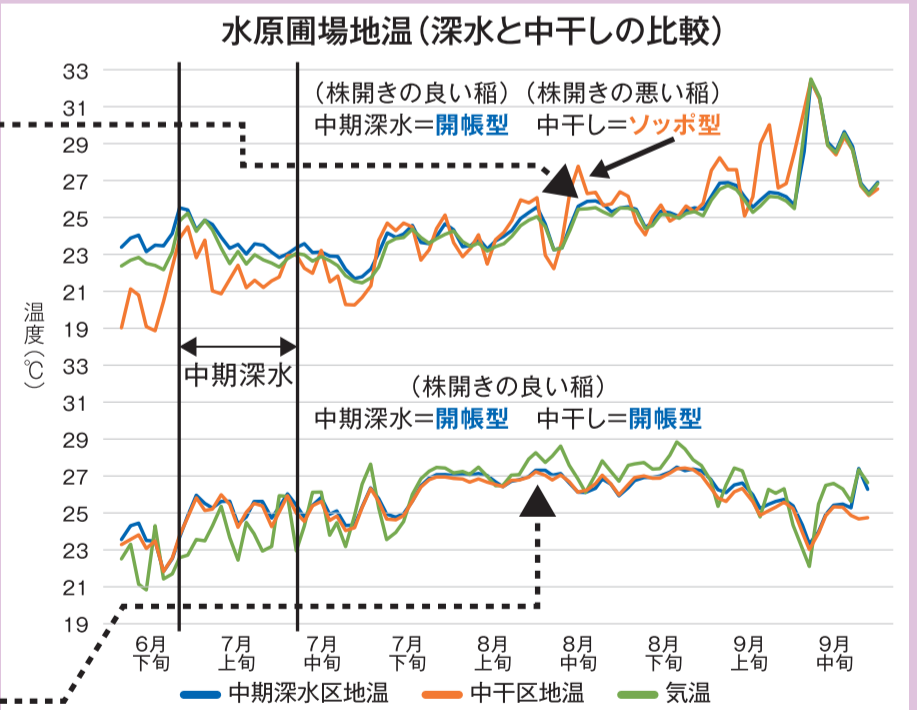


③ 夏に地温を上げない（地温2～3℃低下）

★中期深水栽培をすることで地温の変化が緩やかになる

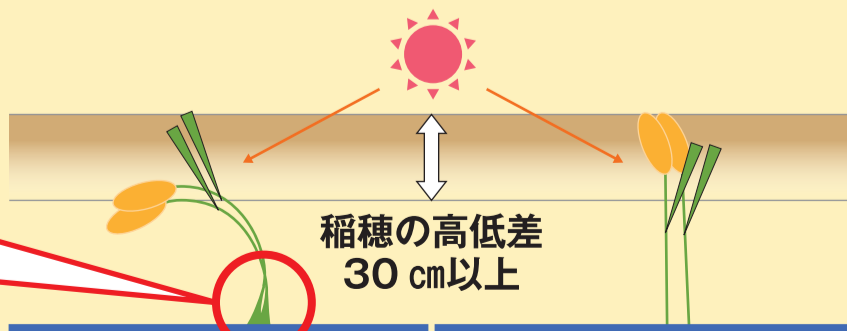


★株開きの良い稲の圃場は中干しをしても中期深水と地温変化が酷似



④ 稲穂の温度を下げる（日陰による穂の温度10～15℃低下）

ホスピタ®で株元強固 倒さず穂を垂らす!



(日なたと日陰による温度差10～15℃)

→ 高低差による気温差 → 止葉による日陰効果

